



東京JAZZ 2023

NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇 –Mirage Future–

プロデュース・指揮：挟間美帆

TOKYO JAZZ 2023 NEO-SYMPHONIC JAZZ at Geigeki

挟間美帆と東京フィルが奏でる ジャズの現在と未来

東京芸術劇場と東京JAZZと挟間美帆が手を組んだ人気プログラムにBIGYUKI、Patrick Bartley、Awichが加わり、カマシ・ワシントン、BIGYUKI、スティーヴ・ライヒ、坂本龍一を奏でる。



ジャズ作曲家の挟間美帆が東京芸術劇場とコラボする「NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇」は今年で5回目。毎年恒例のイベントとして定着しているだけでなく、去年からは日本を代表するジャズフェスの「TOKYO JAZZ」とのコラボレーションとしてさらにパワーアップしている。

「NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇」は東京フィルハーモニー交響楽団とともにジャズとオーケストラが融合した「シンフォニック・ジャズ」と呼ばれる音楽を提供するプログラムだ。プロデュースを手掛けるジャズ作曲家の挟間美帆は、これまでレジェンド作曲家が務めてきたヨーロッパの名門デンマークラジオ・ビッグバンドの首席指揮者を務め、『Dancer in Nowhere』が2020年のグラミー賞の最優秀ラージ・ジャズ・アンサンブル・アルバム部門にノミネートされたジャズ作曲のトップランナーだ。

当初はジョージ・ガーシュウィンやレナード・バースタインといったパイオニアから、クラウド・オガーマンやヴィンス・メンドーサまでの巨匠たちを取り上げてきた。しかし、昨年から「シネマ・ジャズ」をテーマにビョークからジョン・パティステ、millennium paradeの「竜とそばかすの姫」までを取り上げ、より同時代性を持ったレパートリーに変わり、大きな話題を呼んだ。

それに続く、今年ではテーマを「ミラージュ・フューチャー（幻想未来）」に設定し、さらに刺激的なプログラムが組まれている。

現代のジャズはヒップホップを中心に様々なジャンルを飲み込み、ものすごい勢いで進化している。そんな現在のシーンの状況をシンフォニック・ジャズのフォーマットで表現するために、アメリカのヒップホップ・シーンでも活動する気鋭の鍵盤奏者BIGYUKI、Jポップからゲー



©2/FaithCompany

ム音楽までをジャズと融合させるサクソ奏者 Patrick Bartley、そして、ラップのスキルだけでなく、鋭いメッセージを込めたリリックでも高い評価を受けるラッパーのAwichといった最先端に位置する3人を招集し、ジャズ復権の象徴のひとつでもあるカマシ・ワシントンの楽曲やBIGYUKIの楽曲を演奏する。ヒップホップにも影響を受けた音楽が交響楽団と融合するチャレンジングな選曲だ。また現代のジャズにも多大な影響を与えるミニマル・ミュージックの巨人スティーヴ・ライヒ、さらにはフライング・ロータスやサンダーキャットらジャズ周辺のアーティストからもリスペクトされていた坂本龍一まで幅広い楽曲を取り上げる。生前の坂本の作品に起用されたこともあり、交流もあった挟間美帆が坂本への思いを示すような公演にもなりそうだ。

ジャズの現在と未来を見据え、偉大な先人へのオマージュも捧げる。今年は絶対に見逃せないコンサートになりそうだ。

文：柳楽光隆（ジャズ評論家）



8月25日(金) 19:00開演 コンサートホール 詳細はP09へ

プロデュース・指揮：挟間美帆
演奏：東京フィルハーモニー交響楽団
ゲスト：BIGYUKI (Keys)、Awich (Rap&Vocal)、Patrick Bartley (Saxophone)

曲目：スティーヴ・ライヒ/Eight Lines
坂本龍一/0322_C#_minor
カマシ・ワシントン/The Space Travelers Lullaby
BIGYUKI/LTWRK 2023、TSUBASA feat. Awich ほか

特設サイト <https://tokyo-jazz.com>



[サラダ音楽祭]

トーキョー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティバル 2023

TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2023

夏休みは未体験がいっぱいの サラダ音楽祭へ！

今年のサラダ音楽祭[メインプログラム]は、8月5日(金)・6日(土)と真夏の開催となる。夏休みの親子づれでますます賑わいを見せそうだ。



2018年にスタートしたサラダ音楽祭は、毎回さまざまな工夫が重ねられ、オリジナリティあふれる音楽祭へと成長してきた。スタート時から変わらないのは、「Sing and Listen and Dance!! ~歌う！聴く！踊る！」というコンセプト(頭文字をつなげた「サラダ」がこの音楽祭の愛称)。東京都交響楽団の音楽監督で指揮者の大野和士がスーパーバイザーとして関わり、0歳の赤ちゃんから高齢者やハンディキャップのある人まで、伸び伸びと音楽を身体いっぱいに感じさせてくれる。ぜひチェックしていただきたいのは次の4つのポイントだ。

その1：音楽祭メインコンサート

舞踊、合唱、管弦楽が描き出す壮大で深淵な世界に、毎年多くの聴衆が感動で心を震わせている。Noism Company Niigataのメンバーの踊りと都響のコラボは、毎回大きな反響を呼んでいる。今年はJ.S.バッハ(マラー編曲)の管弦楽組曲の中の「エア」で、音楽とダンスが融合する。メインの曲はドヴォルザークの「スターバト・マーテル」。コロナ禍を経て再スタートを切るにふさわしい作品として大野が選んだ大曲だ。

その2：OK!オーケストラ

0歳の赤ちゃんから参加できるコンサートホールでのオーケストラ・コンサートで、歌っても、踊っても、泣いちゃってもOK! 名物の指揮体験コーナーや、近藤良平率いるコンドルズの愉快なダンス、そして東京少年少女合唱隊の爽

やかな歌声に、客席も一体となって盛り上がる。今年は映画「スター・ウォーズ」のテーマや中川ひろたかの「にじ」など、カラフルなオーケストラ曲が並ぶ。

その3：前代未聞の新企画!

サラダ音楽祭では、まだ誰も知らない音楽体験が待ち受けている。今年はタップダンスと弦楽アンサンブルによる子ども向けコンサート『Feel The TAP!!』が楽しみ。世界を舞台に活躍中のタップダンサー熊谷和徳と都響メンバーがお届けするこのステージも、0歳から誰でも入場OKだ。

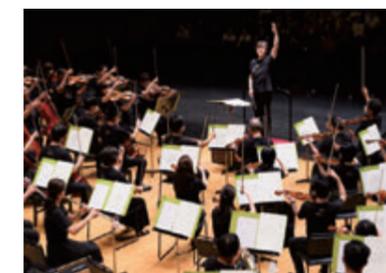
子どものためのオペラもサラダ音楽祭の目玉。今年は『アトランティス・コード』という作品が日本初演される。ドイツを中心に世界で大活躍する演出家・菅尾友、注目の指揮者・齋藤友香理という気鋭の若手が、子どもたちにオペラの楽しさを伝えてくれる。

その4：バラエティあふれるワークショップ

サラダ音楽祭は充実したワークショップの数がすごい! 楽器作り、楽器体験、ダンス、歌、マスタークラス、劇場ツアーなど、一流パフォーマーたちの指導のもとに体感できる。夏休みの自由研究にも役立つそうだ。

これら4つのポイントのほか、池袋駅周辺の商業施設の一角でも、ミニコンサートが行われ、サラダ音楽祭は街いっぱい音楽を広がってくれる。この夏は、Let's SaLaD!

文：飯田有抄(クラシック音楽ファンリテーター)



8月5日(金)▶6日(土) 東京芸術劇場
詳細はP09、10、13へ

- 音楽祭メインコンサート 《スターバト・マーテル》
- OK! オーケストラ~0歳から入場OK!
- タップダンスと弦楽アンサンブルによる『Feel The TAP!!』~0歳から入場OK!
- 子どものためのオペラ 『アトランティス・コード』(日本初演)
- 都響メンバーによる「サラダ音楽祭マスタークラス」
- 都響といっしょに「だれでもピアノ®」
- SaLaDワークショップ
- SaLaDミニコンサート

特設サイト <https://salad-music-fes.com>

